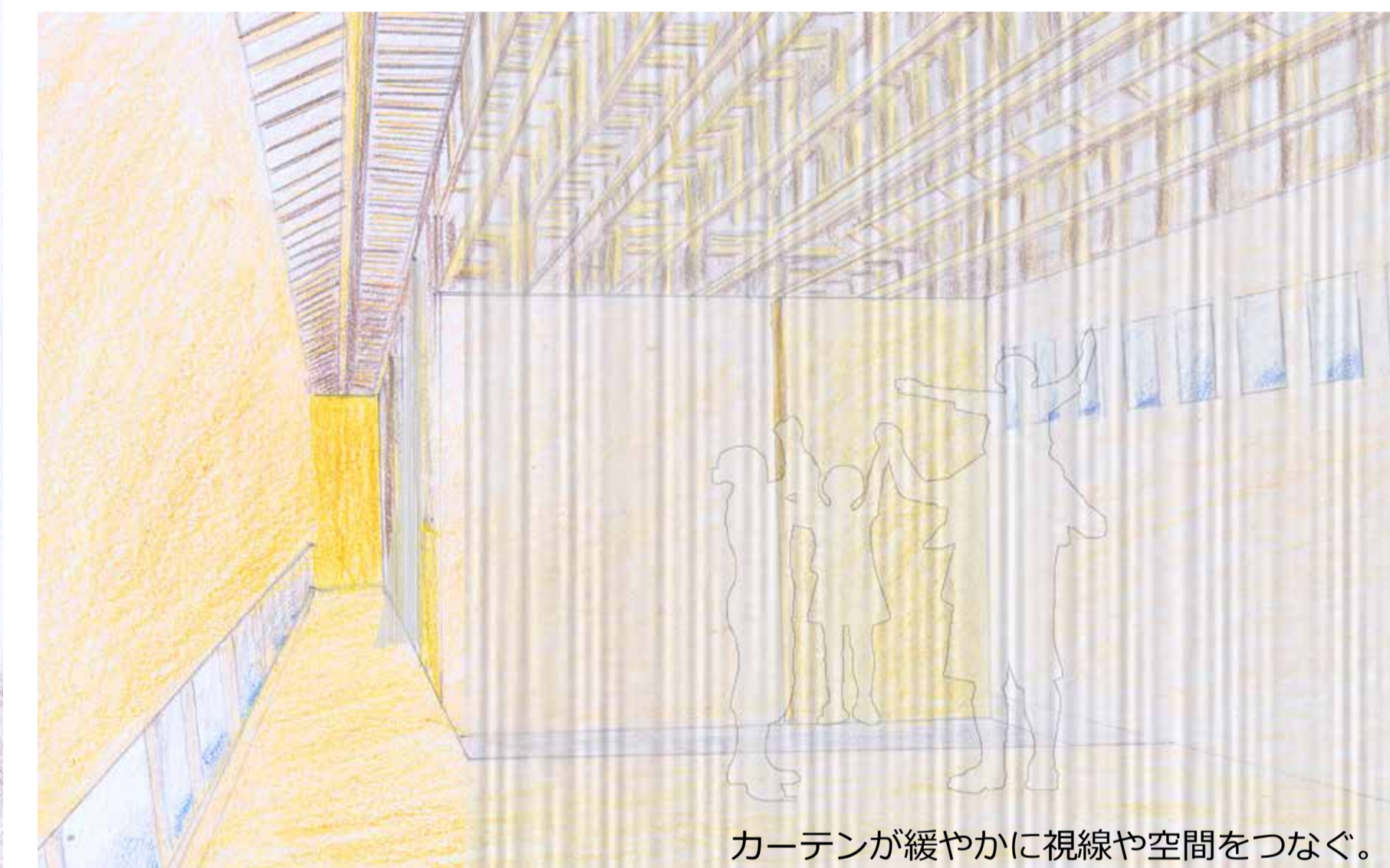


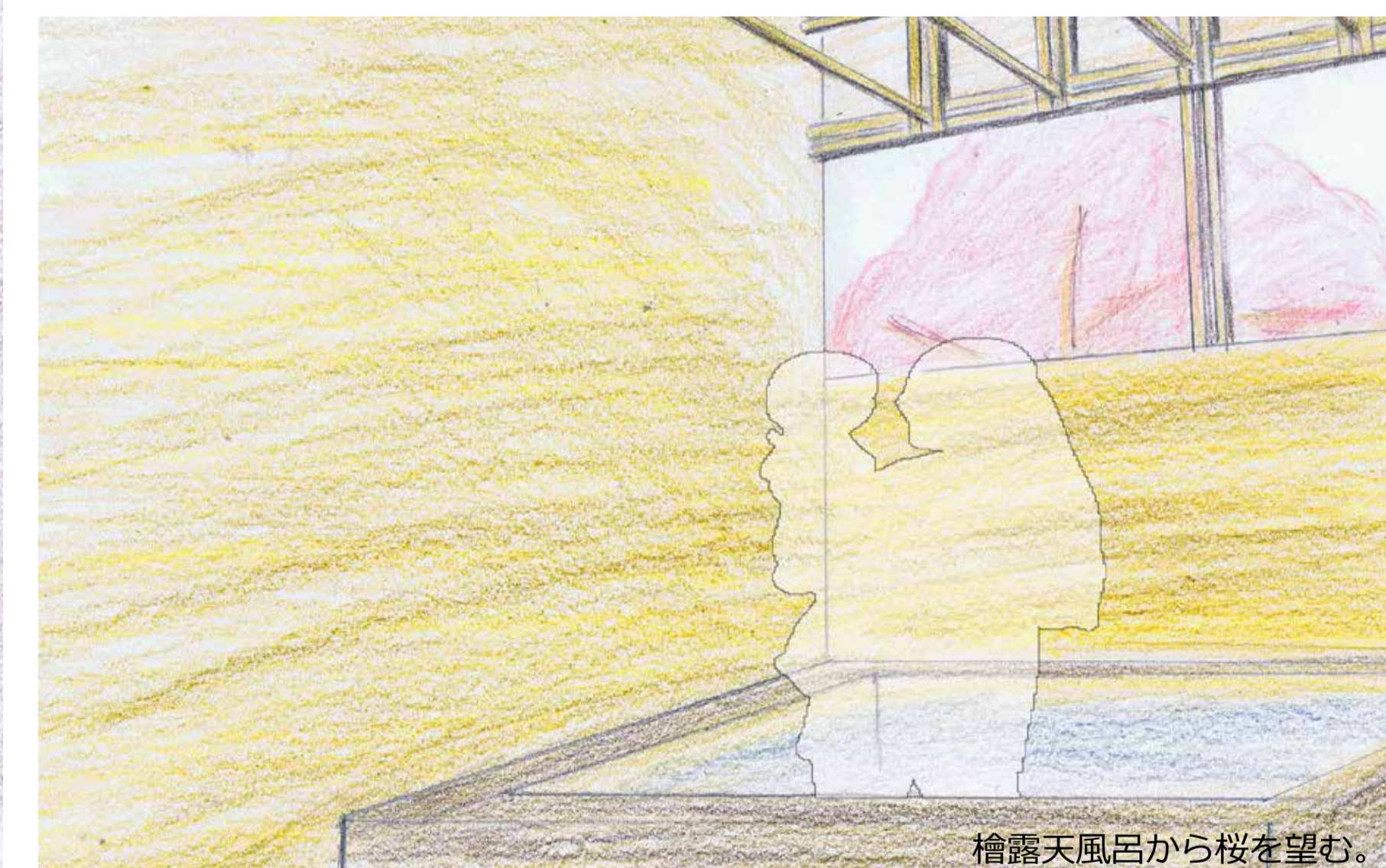
敷地が市民にも開放され新しいコミュニティ空間となる。



住民と市民が触れ合うきっかけを創り出す。



カーテンが緩やかに視線や空間をつなぐ。



檜露天風呂から桜を望む。

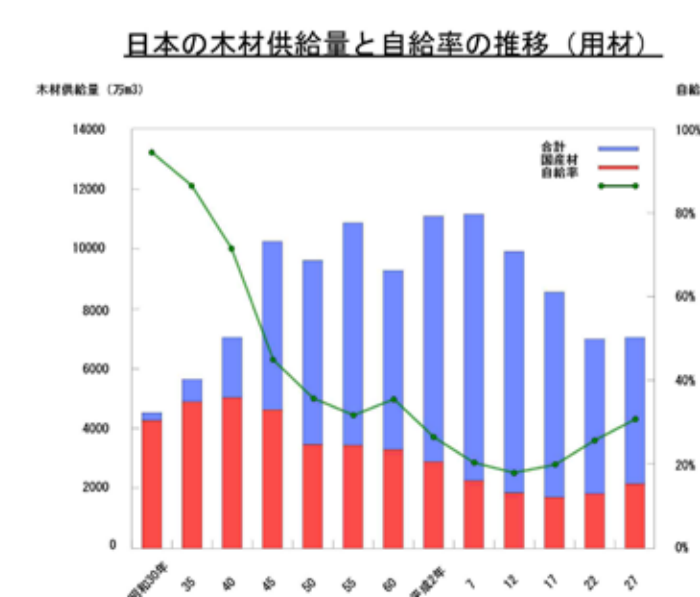
木と住み繋ぐ家

今日我が国では、三人に一人がスギ・ヒノキをはじめとする花粉症に苦しんでいるが、これは戦後、国の政策としてスギやヒノキなどを大量に植林したものの、木材需要の減少や安い輸入材の影響で、伐採や間伐などが停滞傾向となっていることが原因とされている。そういったことからスギ・ヒノキに対して嫌悪感を持つ人も少なくないと考えられる。

そこで木材特有の経年変化や、材を継ぎ未来に住み繋いでいけるような家とすることでスギやヒノキの良さを住人だけでなく地域の人にも関心を持ってもらい、国産材や府内産材の利用を促進させようというのが狙いである。また間伐材に着目し、今まで目を向けられなかったものを活用した。

オープンスペースを敷地内に大きく設けることで、住人と地域の人を繋ぎ、街並みに溶け込んでいけるような計画を提案する。

01. 問題提起

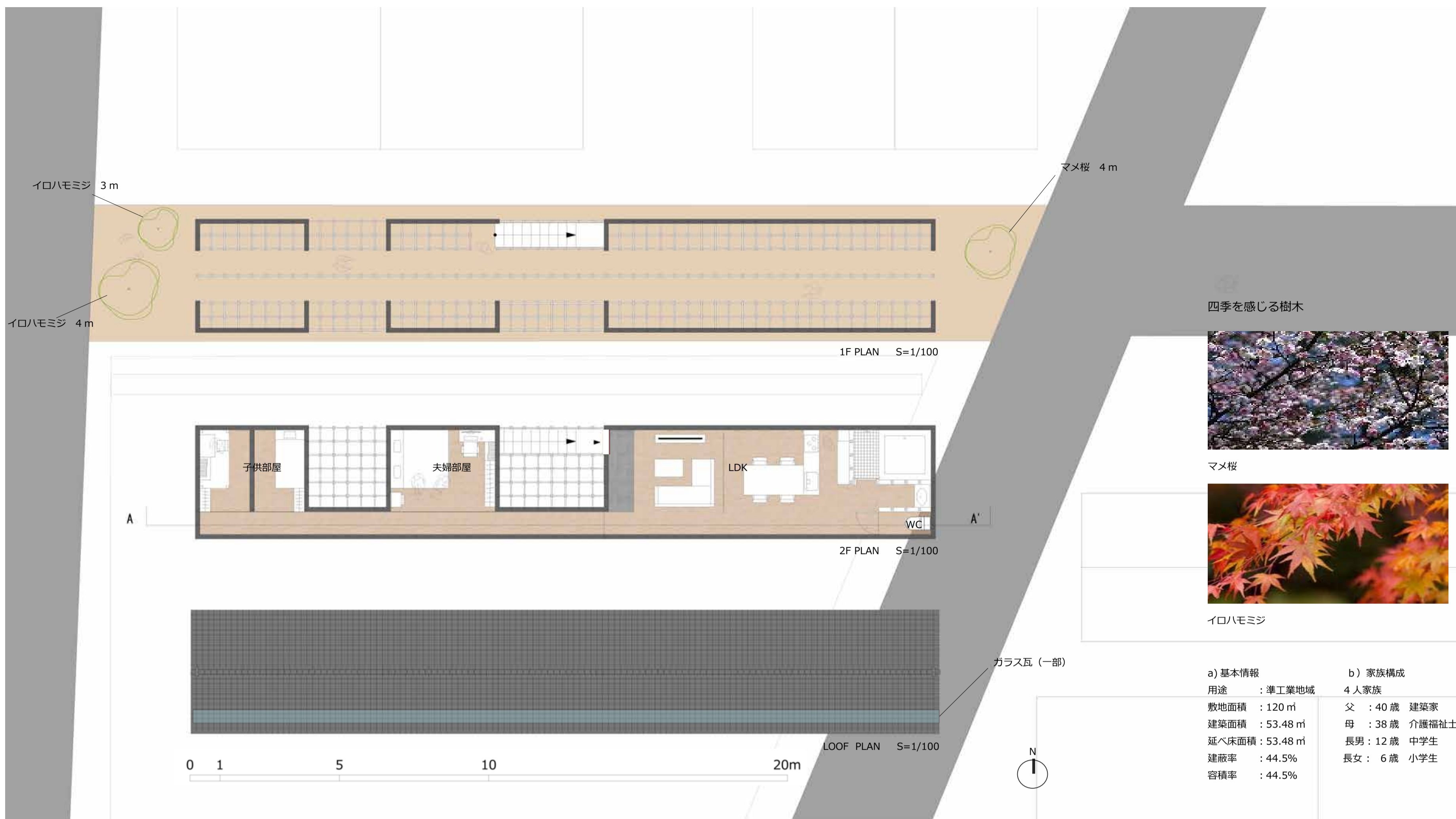


日本は世界有数の森林大国であり、国土面積の約7割が森林が占めている。しかし我が国では使用されている木材の8割が輸入材であり、その結果放置され荒廃している森林も少なくない。よって国産材を積極的に利用し、需要を高めることが求められていると考えられる。今回はそこに建つことで住人だけでなく、地域の人に対しても、木の良さを理解してもらえるような提案を考えた。また同時に、森林を植えて、育てて、伐採するというサイクルを回す一助となるように間伐材の利用法も検討することとする。

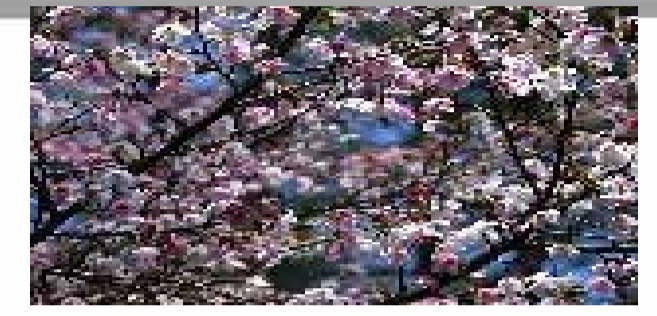
02. 対象敷地



対象地は、京都市内の壬生の地域とする。かつて西高瀬川が木材流通の拠点となり木工所などが多く存在したが、近年では木材需要が低下し、減少傾向にある。そこで本計画の対象地とし住人だけではなく、市民の方々に再度木材に関心を持たせて地場産業の復興も念頭に置いている。また敷地は、現在使われなくなった倉庫跡地を対象敷地とする。また元々道ではないが、本計画ではこの細長い形状の敷地を通り抜けができる道や、避暑地などすることで地域との関係性を築いていくことも構想している。



四季を感じる樹木



マメ桜



イロハモミジ

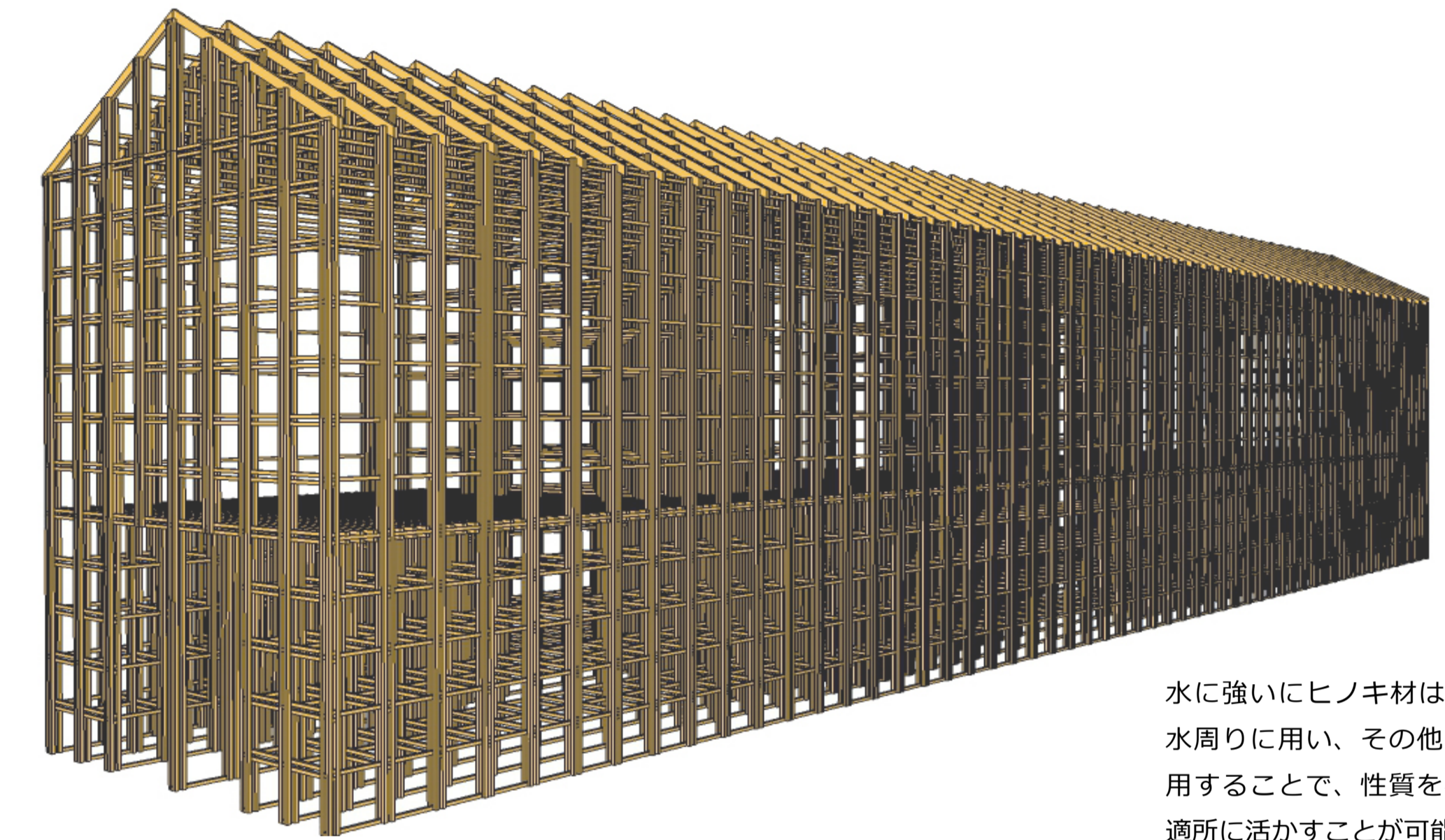
a) 基本情報	b) 家族構成
用途 : 準工業地域	4人家族
敷地面積 : 120 m ²	父 : 40歳 建築家
建築面積 : 53.48 m ²	母 : 38歳 介護福祉士
延べ床面積 : 53.48 m ²	長男 : 12歳 中学生
建蔽率 : 44.5%	長女 : 6歳 小学生
容積率 : 44.5%	

03. デザインモチーフ



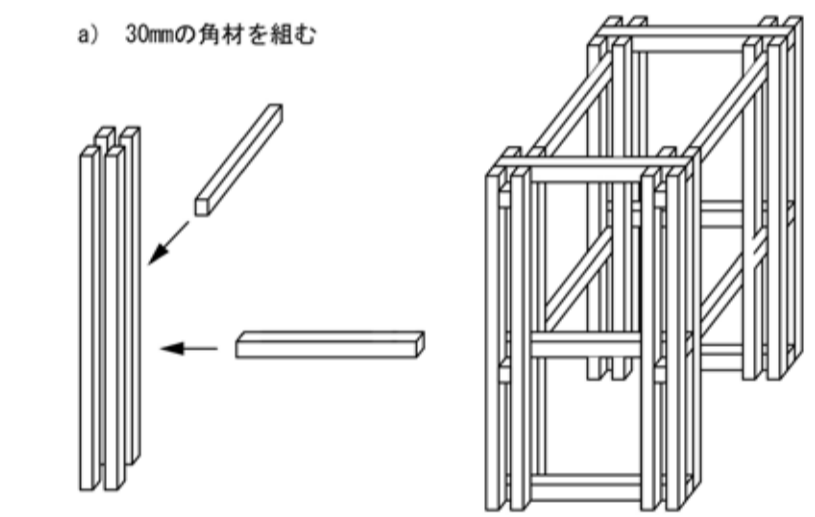
写真は、京都府京都市左京区八瀬に植林されているスギ・ヒノキの写真である。まっすぐ上に伸びる方向性や整列された様子をデザインモチーフとした。見た目ではほとんど見分けられないが、スギ・ヒノキの特徴に合わせて計画することで、木に包まれた豊かな暮らしを提案する。

04. 構造モデル



水に強いヒノキ材は、床下部分や水周りに用い、その他はスギ材を利用することで、性質を考慮した適材適所に活かすことが可能となる。

05. 間伐材の活用



今まで価値が付かなかった小断面の間伐材や虫食い材から得ることができる30mmの角材を編み込むことで構成する。部材が劣化しても角材を継ぎ足していくことで、いつまでも住みつなぐことができる木造住宅本来の良さを引き出す。低コストで長期的に使うことができる。

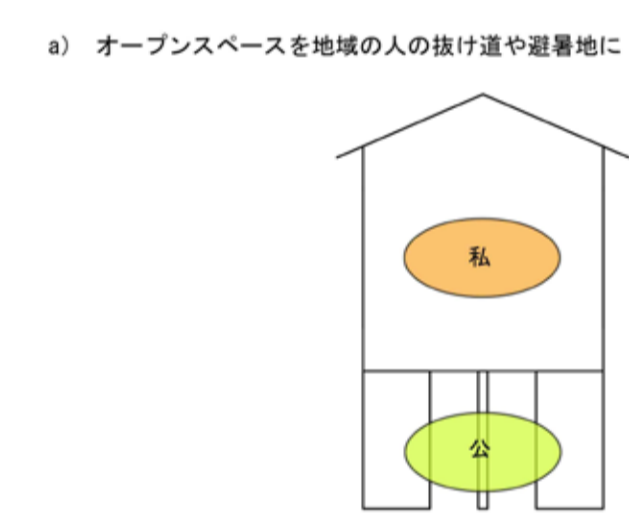


地域の森林整備で得た間伐材をチップ化し、和紙を濃いてこよりから糸を作ったものを、規則正しく整然と並べ、間仕切りとして採用する。緩やかに境界を作り出し、圧迫感のない空間を演出する。また風が吹くとリズムカルに動く様子が部屋のアクセントにもなる。



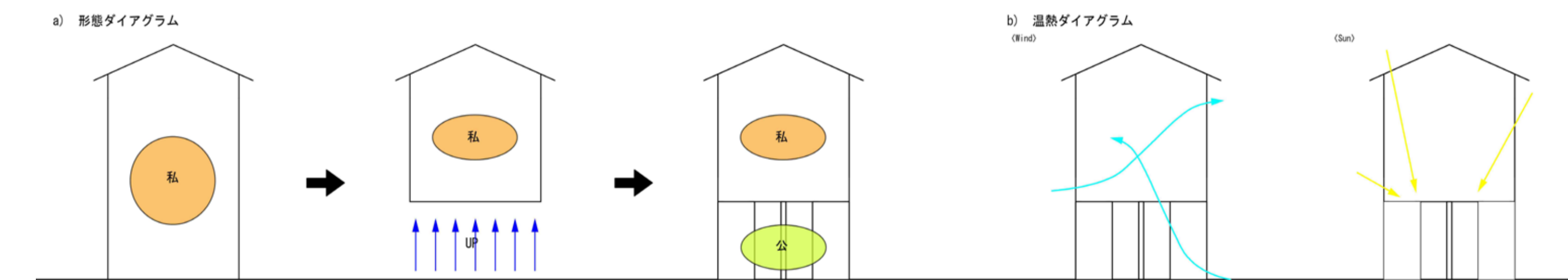
間伐材をチップ状に砕き、ウッドチップを敷地内に敷くことで雑草が繁殖するために必要な光を遮り生えにくくさせる。またグランドカバーとして避暑地となったり、スギやヒノキの良い香り楽しめる空間を創出することができる。本建築の廃材などもチップとして利用する。

06. 地域に開いた空間構成



一階部分を地域に開くことで抜け道や避暑地として活用する。時間が経過するごとに地域に馴染み、街並みに溶け込んでいく仕組みである。またコミュニティスペースとして、住人と地域の人をつなぐ場所とすることで、希薄となった地域の人との関係性を再構築する場所にもなる。

07. ダイアグラム

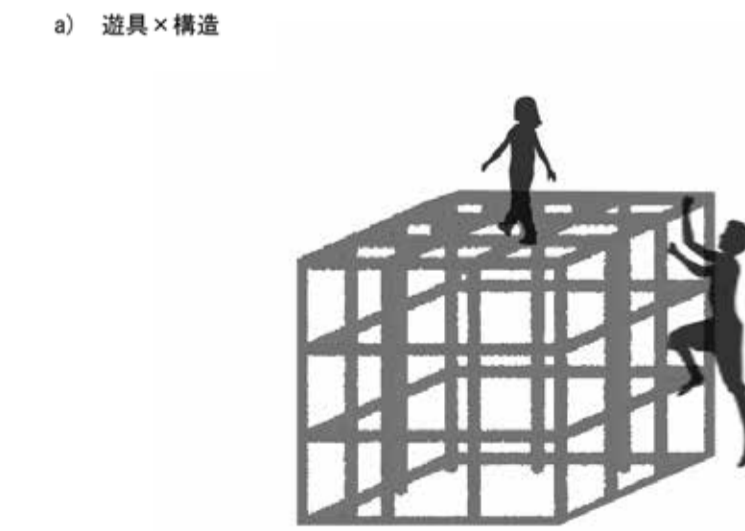


08. 経年変化していく住宅



外壁に府内産のスギを炭化させた焼杉材を使うことで、紫外線から守られ耐候性・耐久性が増加する。また、経年変化として色落ちするがそれは風合いとして趣が出る。近年ではガルバリウムやサイディングが主流だが焼杉ならではの温かみと癒し効果を楽しむことができる。

09. 構造体を活かす



構造体でもある木組みを遊具として楽しむ空間とし、子供がジャングルジムとして利用することで、幼いころから木と触れ合える空間を作り、木育を施す。またツタ性の植物を巻き付け、緑を楽しむ場にする事ができる。非常時の避難経路にもなることも想定している。



SOUTH ELEVATION S=1/100

EAST ELEVATION S=1/100

A-A SECTION S=1/100